

## 政治分野における男女共同参画の課題（各政党の意見）

### <人材発掘、育成関係>

- ・ 女性で立候補の意志があっても家族の理解を得るのが難しい。女性の方が家族の支援を得にくい。
- ・ 女性の自己評価が男性に比べて低い傾向がある。
- ・ 各支部で決定権を持っている者に男性が多く、男性目線で候補者を選びがちである。
- ・ 女性の人材を見つけることが、男性には難しく、候補者を選定過程に女性が必要。
- ・ 候補者公募に対する応募者は男性が多い。
- ・ 政治分野を志す者が男女ともに少ない。

### <ハラスメント関係>

- ・ セクシュアル・ハラスメントや票ハラスメントが深刻である。
- ・ 女性の尊厳を傷つける議会内外での女性蔑視発言、セクシュアル・ハラスメント発言や行為などが放置されており、なくしていかなければならない。
- ・ 現職も新人も、女性に限らず、票ハラスメントの経験者が多い。選挙を手伝う男性議員が男尊女卑の言動、無感覚なセクシュアル・ハラスメント的な日常会話をすることがある。
- ・ 男性より女性の方がオンラインハラスメントの被害に遭いやすい。

### <選挙前及び選挙期間中のサポート体制関係>

- ・ 選挙対策事務所において女性スタッフが少なく、男性目線で選挙戦略をたてがちである。
- ・ 「女性はこうあるべき」というステレオタイプを押し付けがちで、その人らしい選挙戦をしにくい。
- ・ 女性の新人候補は、有権者や陣営内の男性から「女に何ができる」「素人の女に選挙はわからない」との態度を取られた者が多い。
- ・ 女性候補者の周囲に女性スタッフや女性地方議員を意識的に配置するサポートが必要。
- ・ 体調の面で、男性スタッフには言いにくいことがある。
- ・ 選挙直前や選挙期間中は非常に激務になる。
- ・ 女性議員比率を高める上で障害となっている小選挙区制はやめ、比例代表制にするなど、現在の選挙制度を改革することが必要。

#### <議員活動と家庭生活の両立環境の整備関係>

- ・ 女性議員の妊娠、出産時における遠隔投票の検討が必要。
- ・ 選挙では朝の駅立ち・辻立ちがしにくい。
- ・ 女性が家事・育児・介護などさまざまな負担を担わざるをえない状況が残されており、党による援助が必要。同時に、議会としても、保育ができる環境整備をすすめるなど、改善、強化が必要。
- ・ 育児を抱える者のサポートが必要。
- ・ 家族の協力が必須であり、泊まりを伴う視察や、夜の夕食会後の懇親会等、家を空けることが難しい。
- ・ 会合出席や支援者との懇談などがあり、夜・土日も休める機会が作りづらい。

※ 令和元年 11 月から 12 月にかけて内閣府が各政党に対して調査して得られた意見